

時事新報

右の如く僧侶の任務を數へ来るときは教旨を傳播して
社會の秩序を保つといふ宗教家通有の職務ある上より
前の必要も就ても執るべき事業甚だ少からず左れば
僧侶は俗世界の政治又關心して事をしく被撲擧權を要
求するに及ばず、又政府に於ても之を高尚の地位と置
き人情世界の進歩を一托して然るべしと我輩の信する
所なれども爰に政府の僧侶と對する處置は俗なるが如く
俗ならざるが如く甚ざ曖昧の嫌ありと云ふは一方に
被撲擧權を與へずして一方又兵役の義務を負はしむる
と即ち是あり政治世界に於て既に一大公權を與へざる
上は之を平均せんが爲めよ又一方の義務を免除するは
相當の處分ある可し加之兵事の如きは元と殺伐の所業
にして僧侶の主義に照し眞反対の職務あれば強て此任
に當らしむるは人心を傷くるの嫌あきにあらず僅に國
民中の一小部分なる僧侶をして假令へ兵役に與からし
めざればとて何の不都合ある可けんや或は兵役を忌避
する者が僧侶の免役を奇貨とし相率ひて桑門に入るの
は蓋し甚だ少かるべし將た此等は軍人としても好
ましからざる所の者あり故に我輩の政府に望む所は僧
侶をして政治社會に奔々せしめざると共に其兵役を免
除して益々人間道徳の頭内に其全力を盡さしむるの方
向を取らんふとの一事なり

○朝鮮國輸入米免稅と題して一昨日の本欄に掲げたる項中釜山本邦領事館どあるは京城本邦公使館の誤りありと昨日の官報には是正したり
○誤字昨日本欄直江津線の項第七行軌道は軌道同第十五行聯絡は聯結の誤りあり
○鐵道局年報(昨二十一日)の記載
資本勘定

備考 本草中決算と稱するは總預算に對し全部の勘定並勘點
現して完結せしものを云ひ既算と稱するは一部の勘定は整理
するも未だ總算に對し全部の路算を完了せざるものと云ひ
未算と稱するは預算に對し既に一定の事業に向て支出をな
せしもの未だ其勘定の整理せざるものと云ひ總預算中と稱す
は現金物品等の轉々交換に止り未だ算算に對し支出の一観
せざるものと云ふ

本年度末當局鐵道資本の總額は金三千三百三十九萬九千七十四圓にして
之を前年度末資本總額に對比すれば實に金七百十萬六千百七十五圓の
増加を認る然じて本年度に在りて期の如く巨額なる資金の増加を要せ
しは東海道線(本線は初横濱駅間なりしが線路甚大延長するに從
ひ工事上の便宜に依り本年度より更に大原武藏間を本區間に合併し
則ち横濱駅間及び大垣武藏間を以て本線の區間となせり)候須賀
及び本年度新たに起工せし湖東線等の工事最も急務を要せしが爲めに
して其他尚ほ直江津線の殘工事等に充てし金額も亦少しがせず右の如
く其工事の急進を謀るに伴ひ斯く巨額なる資本の支出を要せしと共に
既て本年度に發算を了せし金額も亦甚多く之に其未だ算算に至らさ
る金額を加ふるときは本年度支出の金額は概ね左に列記するが如き額

五二右端收銀處在潮太支內
一二十十一十二十三十四十五
附言金額の額
資金の領收に洗りてはいたりに之に金の領收額
新築工事の三年度の末費の内訳は
本年度中新開山長野間二上田新規井
通を得東新井津輕岡間七
なりとすの開業線路の延長に随らざるのみ
もの多し而需求に應じては意外外のもの
汲々たるに至る次第にしき情不平の感
をして苦情ある者との如きを爲す百
東海道線兩京縣境に至れり
既成線路中道會社線路及構内に本
の移設等の最も甚しき堤軌道及構
間線路の破損のあり概言すれば無
賃制限外する程度な減ること
本年度末車度に至る迄
彼の事情
俱樂部中に
りたる者よ
銘々二人の
要を欠かさ
れども又二
を構内しな
筈にして會
何、ピーナ
食其他の用
氣を利かせ
くて會員諸
員は常々同
一切の消費
或る俱樂部
の價を惜き
から無駄來